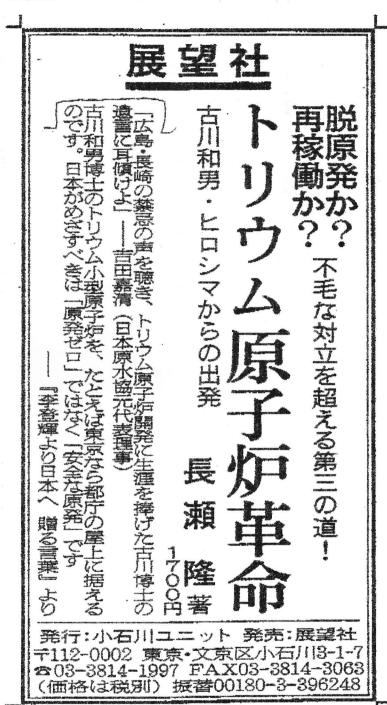
2014/08/07 11:26:26 東広告 4 階 # 小 1 出 IGAT140807 000100A 1/8割 3段 N版 自動偏倍 100.00% 100.20%

0809

草丹日、草芹级8月9日草科11



川内原発(鹿児島)が今秋にも再稼働?!

自然エネルギーか? ウラン軽水炉原発依存か?

不毛な対立を超える第三の道、トリウム原子炉に着目!

2014年8月1日 搬入発売/10日前 朝日新聞広告出稿予定

トリウム原子炉

古川和男・ヒロシマからの出発

長瀬

瀬 隆 ヒロシマからの出発 不毛な対立を 超える 脱原発か? 再稼働か? 第三の道!

ブルトニウムの消滅免疫をしながら、平和で安全な原子カ エネルギーに転換させる遊がここにある!— 渾身の春

【目次】

- ウラン-プルトニウムを止めよ
- 2 ヒロシマからフクシマまで
- 3 リリエンソールに学ぶ 4 FUJI(不二)の発明
- 5「核拡散防止への実効ある提言」
- 6 トリウム原子炉開発が遅れた理由
- 7 3.11から『原発安全革命』へ
- 8「トリウム熔融塩の歴史と新しい役割」
- 9 世界を救済するトリウム原発 <トリウム原子炉>関連年表/参考文

【本書に寄せて】

古川博士はヒロシマ・ナガサキの禁忌の声を聴き、トリウム原子炉の開発に向 かい生涯をこれに捧げた。著者夫妻は私の年来の友人・同志であり、夫人は古 川氏の幼馴染と聞く。

「博士の遺言に耳傾けよ」と説いているが、私もまたこれに従うのである。

-吉田嘉清 (日本原水協元代表理事)

【著者から】

本書は、1945年米国による原爆の開発、広島への投下に始まり、2011年の福 島でのウラン軽水炉原発事故により一段落のついた人類の前あるいは第一期 とよばれる原子力時代を要約・俯瞰する試みである。理学博士古川和男の著 書『原発安全革命』(文春新書)は、氏の発明になるトリウム熔融塩核エネル ギー協働システムについて述べており、私としては文系の著作活動の延長上 で、古川の革命的な業績を把握したかった。 ——長 瀬 隆

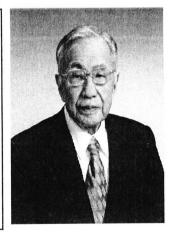
【著者プロフィール】

長瀬隆(ながせ・たかし)

1931年樺太(サハリン)生まれ、47年に引き揚げ。帯広高校を経て早稲 田大学第一文学部露文科卒。日本原水協国際部に勤務後、商社に入 り、ソ連および中国を担当。

著訳書に『樺太よ遠く孤独な』(西田書店、1984)、『ヒロシマまでの長い 道』(晩聲社、1989)、ペレヴェルゼフ『ドストエフスキーの創造』(みすず 書房、1989)、『微笑の沈黙』(晩聲社、1996)、「松尾隆」(『早稲田・1950 年・史料と証言』全6冊に連載、新制作社、1997~99)、『日露領土紛争 の根源』(草思社、2003)、『ドストエフスキーとは何か』(成文社、2008)

広島で被爆した妻・和子とは大分の幼馴染である故・古川和男(理学博 士)との縁が、本書に結実。



貴店印	注文数(委託扱)	発行元 小石川ユニット / 発売元 (株)展望社	
		トリウム原子炉革命――古川和男・ヒロシマからの出発	
		著者:長瀬隆四六判240頁+口絵2頁	
	m	ISBN 978-4-88546-284-9	定価1,836円(本体1,700円+税)
		プルトニウム消滅! ――脱原発の新思考	
		著者:森中定治 四六判 240頁	
	#	ISBN 978-4-88546-242-9	定価1,512円(本体1,400円+税)

お問合せ先 (株)展望社

お問い合わせ電話番号 TEL 03-3814-1997